

「令和 6 年度大阪府 SDGs 有識者会議」(第 2 回) 議事概要

■有識者 : (五十音順)

・今井 健 氏 (国際協力機構 (JICA) 関西センター 次長)

日時: 令和 7 年 3 月 3 日 (月) 15:15~16:00

場所: オンライン

・川久保 俊 氏 (慶應義塾大学 理工学部 准教授)

日時: 令和 7 年 3 月 7 日 (金) 9:00~11:00

場所: 大阪府庁本館

・草郷 孝好 氏 (関西大学 社会学部 教授)

日時: 令和 7 年 3 月 3 日 (月) 12:00~14:00

場所: 芦屋市役所南館

・村 上 芽 氏 (株式会社日本総合研究所 チーフスペシャリスト)

日時: 令和 7 年 3 月 7 日 (金) 15:00~16:00

場所: 株式会社日本総合研究所 大阪本社

・柳川 雅嗣 氏 (吉本興業ホールディングス株式会社

コーポレート・コミュニケーション本部)

日時: 令和 7 年 3 月 6 日 (木) 15:00~15:35

場所: 吉本興業ホールディングス株式会社 大阪本社

- ### ■次 第: 1. 令和 6 年度の事業報告
2. 令和 7 年度以降の事業予定
 3. その他

■議事録

1. 令和 6 年度の事業報告

(今井 健 氏)

・令和 6 年度の活動のうち、データブックについては、非常に意義のあるものと認識している。何から取り組めば良いか、あるいは取組みの方向性が合っているのかについて、調べられるものはなかなかないので、これは広く全国展開できるものだと思う。全国フォーラムを開催する都市が、このデータブックに追記していく等により、内容がさらに充実し、政府等に効果的に提案できる材料になるのではないかと思う。

(川久保 俊 氏)

・認知度調査結果に表れた S 字カーブについては、全国的な傾向かと思う。「SDGs」という言葉は、一定の市民権を得てきたのではないかと理解している。その上で、若者の認知度が今回低下しているのは、「SDGs」そのものへの教育から、脱炭素や、循環型社会など個別の教育にシフトしてきているからなのかもしれない。

(草郷 孝好 氏)

・データブックに関して、データの公表は大事だと思うが、中小企業が自社事業の中に具体的に波及できることが大事だと考えている。データブックの事例は大手企業が中心になっているが、素晴らしい取り組みをされている中小企業は沢山ある。

・データはあくまでもツールなので、次年度以降は実践編を作っていくのはどうか。「みんなで作り上げていく」というコンセプトで作成すると、企業にとって非常に魅力的に映ると思う。

・データブックの狙いについても、ホームページなどで発信するとよい。

(事務局)

・データブックを活用し、中小企業の生の声を聴く機会を増やしたいと考えており、その過程で中小企業の事例も収集していきたいと考えている。

(村上 芽 氏)

・データブックは、読んで勉強してもらうには良いと思う。

・「**OSAKA KANSAI SDGs Forum**」について、特にユース世代の発表は周囲の評判が高かった。また、発表分野もバラエティに富んでいた印象がある。

(柳川 雅嗣 氏)

・SDGs データブックは、各自どのように活用するのか教えてほしい。

(事務局)

・府のホームページでブック全体を掲載し、ダウンロードしていただくことを予定している。

(柳川 雅嗣 氏)

・認知度調査に関して、認知度は安定期に入っているとのことだが、当社の「**Warai Mirai Fes**」のように、イベントで体験してもらう等、若者世代が SDGs に関心を持つ仕掛けを入れてもよいのでは。人が集まる場所へのアプローチについては、まだ取組みの余地があると感じる。

2. 令和7年度以降の事業予定

(今井 健 氏)

・9月15日に、大阪市と共同で開催するイベントにおいても、**SDGs** 宣言を集めると思うが、そのデータをどう取り扱っていくのかという出口戦略についても、検討をしておいた方が良いのでは。

(川久保 俊 氏)

・イベントで宣言を収集する際は、関連するゴールの選択にあたり、**SDGs** の 17 ゴールに当てはまらないという選択肢を設けるとよい。それが **SDGs** のビヨンドに繋がっていく情報になる。可能であれば、性別・年齢・地域差等の属性情報があればより貴重なデータとなる。

(草郷 孝好 氏)

・フォーラムについては、一方的に聞くだけでなく、参加者同士で話す機会を与える等、参加者が主体的に参加できる仕組みが重要と考えている。

・「**OSAKA KANSAI SDGs Forum**」は連続のピッチ形式（発表会）になっており、聞く方も飽きてしまうと感じた。2～3 団体で、お互いに意見交換したり、参加者からコメントを募るなど、参加感を強めるようにするのはどうか。

・全国フォーラムの参加者から、参加後「万博のフォーラム宣言」を収集するのはどうか。

・また、万博は様々な国の方々が来場するので、自言語で手元資料の確認ができるようにする等の仕掛けができると面白い。

(村上 芽 氏)

・全国フォーラムについて、自団体外に波及しづらい取り組みの発表会にしない、という趣旨には賛同する。

・参加者の声が聞いてもらえる場は大事だと思う。フォーラムの登壇者は、発表が初めてという人も増えてほしいと思う。

・カジュアルなイベントの場では、必ずしも結論を出さなくても良いと考えている。

(以 上)